

## 第6回 茅ヶ崎市市民活動推進委員会 会議録

|               |  |
|---------------|--|
| 議題            | <p>(1) 平成31年度実施協働推進事業公開プレゼンテーション</p> <p>(2) 平成31年度2年目実施(予定)協働推進事業の評価について(審議事項)</p> <p>(3) 平成30年度2年目実施協働推進事業の中間評価について(報告事項)</p>                             |
| 日時            | 平成30年12月1日(土)10時00分から12時25分  |
| 場所            | 市役所本庁舎4階会議室3～5   |
| 出席者氏名         | <p>草野正弘 西野義一 森祐一郎 椎野典子 秦野拓也<br/>         北川哲也 高橋準治 伊藤隆 岩壁榮 大江守之<br/>         中川久美子<br/>         事務局5名(市民自治推進課)<br/>         石井協働推進担当課長、前田課長補佐、遠藤、柿澤、勝山</p> |
| 欠席者           | 石田貴一 水島修一  |
| 会議の公開・<br>非公開 | 一部非公開  |
| 非公開の理由        | 議題2及び3については、自治基本条例第14条第3号及び情報公開条例第5条第2号に基づき非公開   |
| 傍聴者数          | のべ10名  |

## 【プレゼンテーション】

### ○事務局

みなさま、おはようございます。公開プレゼンテーションの開会に先立ちまして、本日のスケジュールをご説明いたします。お配りしております緑の冊子の1ページをご覧ください。本日、これより11時15分ごろまでのお時間で、平成31年度実施協働推進事業公開プレゼンテーションを開催します。平成31年度に2年目の事業としての実施に向けてご提案いただきました行政提案型協働推進事業2事業のプレゼンテーションをいただきます。10分間でプレゼンテーションいただき、10分間の質疑応答を予定しております。短い時間ではありますが、時間内でまとめていただきますよう、ご協力をお願いします。プレゼンテーションは、開始から中間を過ぎたところで、1回ベルを鳴らします（ベルを1回鳴らす）次に終了1分前に、再度ベルを鳴らします。（ベルを1回鳴らす）終了時点で、2回ベルを鳴らします。（ベルを2回鳴らす）

これをもってプレゼンテーションは終了です。発表者の方は途中であっても終了してください。その後、質疑応答を行います。質疑につきましては、疑問点等を解消し、採否を判断する上での判断材料となります。限られた時間の中で、できるだけ疑問点等を解消するため、質問及び回答につきましては、一問一答形式でお願いします。

2事業のプレゼンテーション終了後、市民活動推進委員会による事業の評価を行います。評価会議は、非公開とさせていただきます。ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、市民活動推進委員会委員は、自らもしくはご家族が関係する団体の提案事業の評価を行うことができない仕組みとしています。

平成31年度を2年目として提案された事業は、平成30年度を1年目として実施している事業の中間及び2年目の具体的な事業の事業計画等を、「協働プロセス」「事業内容の評価」「協働プロセスと事業内容の評価を踏まえた総合評価」の視点から評価します

平成31年度実施事業は、本日の結果を受けて、市長が最終的に決定します。結果につきましては、提案団体の皆さまに、12月下旬に書面でご連絡いたします。また、市ホームページ等でも一般に公表してまいります。採択された場合、提案団体の皆さまには、市のパートナーとして、事業を実施していただきます。事業の実施にあたっては、公共の担い手として、一定のルール、例えば法令遵守、説明責任、情報公開などを守っていただくこととなります。また、事業終了後に予定されている、実施報告会の場で、事業実績と収支決算の内容を報告していただきます。7ページ以降は、今回ご提案頂いた企画書、収支予算書を掲載しております。なお、本日の公開プレゼンテーションの様子は、広報紙・ホームページ掲載用又は記録用として写真撮影をさせていただきます。あらかじめご承知おきください。最後になりますが、会場内に、市民活動げんき基金補助事業の原資となります市民活動げんき基金の募金箱を用意しております。ご来場の皆さまにも、制度の趣旨をご理解いただき、ご協力いただければ幸いです。以上でございます。

それでは、ただいまから平成31年度実施 協働推進事業公開プレゼンテーションを始めます。はじめに、茅ヶ崎市市民活動推進委員会の大江守之委員長よりごあいさつ申し上げます。

#### ○大江委員長

みなさま、こんにちは。只今ご紹介頂きました市民活動推進委員会委員長の大江でございます。プレゼンテーションの開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

この協働推進事業は、多様化する市民ニーズや、より効果的な行政経営を目指し平成18年度から運用を開始し、既に約100事業を実施してまいりました。運用以来複数回の制度改正を行いながら現在の仕組みになり、運用しています。

現在の制度では、事業期間を2年間と想定したうえで提案いただき、協働推進事業終了後の継続のあり方に配慮した形態となっています。このプレゼンテーションは、来年度が初年度となる事業と合わせて、来年度が2年目の実施となる事業を評価する目的でございますが、今年度に関しては、新規事業の提案がないことから、来年2年目を迎える2事業のみのプレゼンテーションとなりました。本日は、例年よりコンパクトではありますが、来年度の事業の実施に向けた有意義な機会となるよう進めてまいります。

それでは、本日出席の委員を紹介いたします。 それでは、本日出席している委員を紹介いたします。

中川 久美子（なかがわ くみこ）副委員長でございます。

草野 正弘（くさの まさひろ）委員でございます。

西野 義一（にしの ぎいち）委員でございます。

森 祐一郎（もり ゆういちろう）委員でございます。

椎野 典子（しいの のりこ）委員でございます。

秦野 拓也（はだの たくや）委員でございます。

北川 哲也（きたがわ てつや）委員でございます。

高橋 準治（たかはし じゅんじ）委員でございます。

伊藤 隆（いとう たかし）委員でございます。

岩壁 榮（いわかべ さかえ）委員でございます。

私を含め以上の11人の委員でプレゼンテーションを進めてまいります。なお、本日は、石田委員及び水島委員が所用により欠席でございます。御了承ください。それでは、平成31年度実施協働推進事業公開プレゼンテーションを開会いたします。

#### ○事務局

ありがとうございました。それでは、プレゼンテーションに移りたいと思います。

「茅ヶ崎公園体験学習センター『はまかぜ菜園』等管理運営事業」のプレゼンテーションに移ります。ご準備のほどよろしくお願いいたします。

なお、この事業でございますが、昨年度は施設名称が定まっておらず、「（仮称）茅ヶ崎公園体験学習施設」でございましたが、今年度「茅ヶ崎公園体験学習センター」と名称が確定いたしましたため、事業名を変更してございます。ご了承ください。

それでは、よろしく願いいたします。

#### ○青少年課

おはようございます。青少年課の半田と申します。

「茅ヶ崎公園体験学習センター『はまかぜ菜園』等管理運営事業」につきまして、まず市のほうからご説明をさせていただきます。

今、市民自治推進課様のほうからご説明があったとおり、施設名につきましては、前回「（仮称）茅ヶ崎公園体験学習施設」ということで1年前は公表させていただいたところですが、ことし6月に議会を通りまして、「茅ヶ崎公園体験学習センター」という正式名称になりました。

なお、下に書いております愛称につきましては、ことし2月から3月に市民提案をいただきまして、そこからいただいた候補を、愛称投票を経て、「うみかぜテラス」という名称が7月に決まりました。なお、この名称を決めたのは、市内の松林小学校2年生の女の子が出した名前でございます。

工事の進捗状況ですが、1年前にこれとは別の写真をお見せしたところ、1年前はまさに基礎工事をやっていたところなんですけど、今は、実はきのう工事が終わりました。12月中旬に引っ越し作業を始めまして、1月5日にオープンを迎えるという状況になっております。

今回の協働推進事業でございますが、赤丸がついております「はまかぜ菜園」を市民活動団体さんと一緒に展開していくというものでございまして、明日から最初の事業が始まります。この間につきましては、ここの実際の見学だとか、どういうふうに進めていくかという協議をしまりました。

市の役割としてございます広報、どういうものをやってきたといいますと、広報「ちがさき」でのPR、公式のフェイスブックページ、私たち施設のほうで持っておりますフェイスブックページ、また、市庁舎のデジタルサイネージ等でやってまいりました。おかげさまでかなりの満席率でいただいております。

市のほうの再度のご説明になりますが、今月22日には開所式、オープニングイベントをさせていただいて、来年1月5日に開館を迎えるというような状況になっております。

市のほうからは以上になります。

#### ○半農半Xを楽しむ会

皆さん、おはようございます。半農半Xを楽しむ会、代表の長谷と申します。きょうは、私を含めて、山口、久保田の3名で伺っております。

「『はまかぜ菜園』等管理運営事業」ということで、今、1月からオープンということで準備のほうを進めさせていただいております。

まず、「はまかぜ菜園」の目的としましては、ここで重複している部分はあるんですが、子どもからお年寄りまで、多世代にわたって触れ合い、そこで土に触れたりとか、農に触れるというところを、その機会を与える場所ということを目的としています。

ここに書いていますように、「気軽に楽しく」というところがとても大事にしたいなというところでありまして、どなたでも簡単にご参加されて、気づくと農的な暮らしだったり、ライフワークというところを進めるきっかけとなればというふうに考えております。

そう考えたときに、普通に一般的な畑をやるというところだと、なかなか敷居が高いんじゃないかなということで、ちょっと今回は趣向を変えて、ポタジェ菜園を学ぼう、つくろうというところで置かせていただきました。最近わりとはやって、ホームページとか、書籍とか、充実してきているんですが、フランス生まれの家庭菜園ということで、ポタジェ菜園というところを採用させていただこうと思っています。

このポタジェ菜園というのが、野菜だけではなくて、こちらの写真にありますように、ハーブであるとか、果樹であるとか、そういったものを混栽、混植させることで、目と舌、楽しみながら、見た目もきれいで美しく、また、味も楽しめるということで、総合的なといいますか、多様性に富んだ菜園ということで、非常にすばらしいなど。そういったところを切り口にすることによって、お庭いじりから始められるような方であったりとか、そういう手軽に入り込めるんじゃないかなということで、より楽しく進めていただけるんじゃないかなというふうに思っています。その辺を微生物なんかの話をしながら、日本独自の発酵というところを取り入れて、土の育て方、野菜の育て方なんかを座学、実践を通じて学んでいきたいと思っています。

スケジュールに関しましては、早速あしたから始めたいと思っております。そこは、ポタジェとはなんぞやというところから、野菜づくりであるとか、土づくりとか、そういう基本的なところをまずは座学でお伝えしていきたいと思っております。1月、来年からは、実際に1月から3月ぐらいをめどに、レンガであったりとか、土地のアップダウンをつけたり、材木を使ったり、DIYしていきながら、基礎づくりといいますか、ベースになるものをつくっていききたいと思っております。

そして4月からは、実際にできたベースのところに対して、果樹とかハーブとか野菜とか、そういった苗だったり種とかを植えていきたい。そうすることによって、色彩豊かな菜園なんかを育てていきたいと思っております。

その中で春夏秋冬、旬のものです。季節のものを植えて、季節のものを食べて、そういったところを味わいながら、旬を知っていただいて、子どもたちの食育にもつなげていきたいというふうに考えております。

以上になります。どうもありがとうございます。

○事務局

ありがとうございました。

それでは質疑に移ります。委員長よろしく申し上げます。

○大江委員長

それでは、ご質問のある方お願いいたします。どうぞ伊藤さん。

○伊藤委員

どうもありがとうございました。

このテラスは非常に海に近いし、潮風、砂がだいぶ舞い込んでくるんだと思いますが、ポタジェをやるに当たって、そういったものに対する配慮とか、あるいは、どういったものを避けるべきなのか、どういったものが植えるべきなのかということはどういうふうにお考えでしょうか。

○半農半Xを楽しむ会

周りに防風林があるというふうには承知しているんですが、ただ、それに加えて、これは野菜をそのまま植えてしまうと、風にさらけ出すような形になりますので、まずは果樹を植えたりとか、あと、ちょっとした物を置くことによって、これはどこに置くかというのが大事であって、南風、特に海風が多いと思いますが、そちら側に障害物、障壁となるようなものを、かわいい、例えば、小屋ではないんですけども、ちょっとした物置であるとか、堆肥置き場であるとか、そういったものを置くことによって、より風の害というのを防ぎたいなというふうには考えております。

○大江委員長

どうぞ椎野委員。

○椎野委員

ありがとうございました。

昨年1年間体験されまして、そして、ここの目的の中に、いろいろな世代が土に触れ、自然を学ぶ機会ということで、子どもたちが好きになるとか、得意になるということがありましたけれども、例えば、この1年間を通して、子どもたちが土に触れて、今まで、例えば、虫にも触れなかった、土には全く縁がなかった子どもたちが、ちょっと変化を起こしたんじゃないかと思うんですが、そのような変化が、1年の間にどのような変化が見られましたか。

○半農半Xを楽しむ会

1月開所ということで、これからはなるんですが、ただ、私個人の経験としては、香川公民館さんとかと一緒にやらせていただく中で、最初は手袋で土に触れたくないというお子さんたちが、最終的には土に触れて楽しめるようになったということで、その辺の効果はすごく期待しているところであります。

○椎野委員

ありがとうございました。

○大江委員長

どうぞ森委員。

○森委員

ありがとうございました。

いろいろプランをご説明いただいて、すごい可能性を感じたんです。参加されるのは40名ぐらいということですがけれども、それ以外の方でも、例えば、進捗を見ながら、自分の気持ちの上で参加していたりとか、具体的に自分の菜園とかでそれを参考にしてやっていくということもありますし、40名以外の方でも参加できる仕組みというのは、つくり上げたらできると思うんですよ。そういったものというのは具体的にお考えですか。例えば、インターネットを使ってとか、見せるものをつくるとか。

○半農半Xを楽しむ会

ユーチューブであるとか、そういったものを加えるとかもそうかもしれないですがけれども、今回、残念ながら、12月に実施のものに関しては40名様と切らせていただいていますけれども、できるだけ人が交流できるように、固定のメンバーでやっていくというよりは、随時人が出入りするような仕組みというのをつくりながら、なるべく多くの人に、目標はあくまで、より多くの方々にお家に帰っていただいて、家庭菜園に取り組んでもらうということですので、そこはこれからいろいろアイデアを出しながらしていきたいとは思っております。

○大江委員長

ほかはいかがでしょうか。どうぞ。

○北川委員

どうもありがとうございます。

いよいよスタートというところで、この4月から準備をしてこられて、実施体制とか、スタッフがふえたとか、そのあたりはありますでしょうか。

○半農半Xを楽しむ会

スタッフ自体は変わらずということではあります。準備というものに関しましては、私個人的に、ポタジェというものもとても新しい試みですので、まずはそこを自分自身学んで、自分の畑でもやりながら、トライ・アンド・エラーを繰り返しているような状況で、そこがある程度回るようになってから、また仲間のほうも今後ふやしていきたいなというふうに考えております。

○大江委員長

それでは、どうぞ。

○草野委員

私も、いよいよ開始だという形で期待している一市民でございまして、その中で、あしたとかに実際にやるということなんですけれども、この集まりのほうが子どもから高齢者という形が入っていますけれども、今回の40人のメンバーの中はどのような構成になっているか、教えていただけますでしょうか。

○青少年課

市のほうからお答えさせていただきます。一番下の子が9歳で、上が、年代でお聞きしていますので、80～90代の方もいらっしゃいます。一番多いのは60、70ぐらいの世代の方が多かったかなという印象を受けております。

以上でございます。

○草野委員

ありがとうございます。

○大江委員長

どうぞ伊藤委員。

○伊藤委員

大変私も期待していますが、おそらく今後長きにわたって続けていくには、40人が1,600人、1,600人がまた40倍になっていくというのが理想なんだと思いますし、それが一つの指標になるかと思うんですが、先ほど伺ったのは、茅ヶ崎、私のところも東海岸なので、海風、潮風が強くて、なかなか菜園が難しいんですね。そういった意味で、うみかぜテラスは、まあまあ皆さんが面倒を見るので、比較的好い環境なのかと思いますが、今後、子どもたち、あるいは家族たちが持ち帰って行って、どの程度茅ヶ崎が持



ち庭があるかどうか、あるいはベランダ菜園なのかどうか、あるいは、今はスポーツセンターになってしまった、ああいった共有、みんなが使える農業施設があるかどうかわかりませんが、そういった場所、場所に展開するためのすべを皆さんが教えていく、あるいは伝えていくことがとても大事なんだと思うんですね。非常にケース・バイ・ケース。南だと、比較的マンションが少ないので、一戸建てが多いんですけども、浜見平などだとベランダ菜園になると思いますし、そういったことに関して、40人だといろいろな背景の方々がいるんだと思うんですね。どういったふうに技を伝えていく、心を伝えていくというふうにお考えでしょうか。

#### ○半農半Xを楽しむ会

ベランダの方も場合によっては畑を借りてというケースもあると思いますし、あとは、プランターを使っているんなものを組み合わせてコーディネートしていくという楽しさも伝えていきたいと思っておりますし、その中でも、何よりも植物に対しての興味であるとか、自然を見る目、例えば風を防ぐためにツル製のものを、例えば、台風の多い時期には植えるとか、イネ科のものを植えて障壁にするとか、そういった創意工夫というのでも考える力であるとか、臨機応変に自然に対して対応できるという、そういった知恵であるとか、力というか、そういったものも養っていききたいと思っておりますので、本当に楽しむだけではなくて、そういうことを知っていく、または興味を持っていく。まちを歩いていると、何が植わっているんだろうとか、それは野菜だけではなくて、果樹だったり、普通の花だったり、そういったものに感性を向けられるような感覚というのを養っていききたいなと思っておりますので、そういう意味では幅広い感覚というのをここでは養っていききたいなと思っております。

#### ○大江委員長

もうおひとかた、ご質問があれば最後に。じゃ、どうぞ。

#### ○中川副委員長

私も中海岸に住んでいまして、すぐ近くのうみかぜテラスの前をよく通って海に行っているんですけども、とても期待しているんですけども、こういうのを運営していくには、事業概要書に書いてありますように、協働の役割の中のボランティアと必要人員の確保というのがとても大事だと思うんですね。ただ募集して、集まってくる方たちもいると思うんですけども、その方たちのコアの運営できる体制みたいなものを、ぜひ行政のほうも一緒に考えてあげて、コアの応援グループみたいなものがしっかりできていって、そこから広がっていくという運営体制を心がけていただけたらなというふうに思います。これは要望ですけども。

#### ○大江委員長

ではちょうど時間になりましたので、これで質疑を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

#### ○事務局

ありがとうございました。

半農半Xを楽しむ会様、青少年課様からのご提案でした。ありがとうございました。

それでは、次の事業に移ります。

「郷土資料デジタルライブラリー推進事業」について、ご準備をお願いします。

それでは、次の事業でございます。「郷土資料デジタルライブラリー推進事業」、特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネットの皆様、図書館からのご提案でございます。よろしくをお願いします。

#### ○茅ヶ崎市立図書館

皆様おはようございます。茅ヶ崎市立図書館の小原と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。認定NPO法人湘南ふじさわシニアネットさんと協働の「郷土資料デジタルライブラリー推進事業」についてご説明申し上げます。

まず、私のほうから3分程度、今年度の取り組みの大枠をお話しいたしまして、その後、シニアネットさんから個々の内容を詳しくご説明いただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

まず、郷土資料デジタルライブラリーですが、こちらは、図書館で持っている茅ヶ崎について書かれた本ですとか、古い絵はがきなどを中心に、インターネットで公開をしまして、たくさんの方に見ていただくというものになります。このあたり、昨年のプレゼンテーションでもご説明いたしましたので、詳しいことは割愛させていただきます。

今年度の取り組み、こちら、スライドのとおりとなりますが、大きくは2つございます。1つは、郷土資料デジタルライブラリーをつかって、ホームページ上で公開をすること。もう一つは、年3回のワークショップと1回のシンポジウムを開催することです。デジタルライブラリーの本格的な公開は今月を予定しているんですが、既にテスト版を公開しておりまして、今、皆様のスマホからでも図書館のホームページから、トップページからリンクを貼って、ご覧いただくことができるようになっております。

こちらの取り組みのテーマ選定のワークショップを6月17日に行いました。そして、体験セミナーを先月11月17日、それから年明け1月19日には活用ワークショップと3月にはシンポジウムを予定しております。これを実現させるために、こちらのスライドのとおり、月1回、定例会議を設けるという計画だったんですが、実際は2回開催する月もございました。

この後、シニアネットさんから実際の取り組みについてご説明いただくんですが、こ

ちらのスライドにあるものは、表から見えるお話でして、実はその裏側では、このスライドにあるほかに、何度もご来館いただいています。資料の下見とか確認から、実際のスキャン作業も納得のいくまで何度も撮り直しをされたりなど、よりよい資料にしようとか、よりよいサイトにしようという熱意を持って、皆様にご尽力いただきました。

また、このワークショップ、セミナー開催のときに、広報でプレスリリースを打っていただいたり、ケーブルテレビのデイリーニュースのゲスト枠を確保していただいて、出演、PRをいただいたりいたしました。

ということもあって、この事業が単なる委託ではなくて、協働でできたこと、そして、シニアネットさんがパートナーとして一緒に取り組めたということは、本当に心から感謝しています。代表の小林さん、プロジェクトリーダーの影浦さん、それから、資料を整えていただいた山本さん、サイトをつくっていただいた瀬下さん、松本さん、素敵なチラシをつくっていただいた板津さん、そして、Wi-Fiでもご協力いただいた安岡さん、そのほか、裏側で私たちの知らないところでたくさんの方が動いていただいたかなと思っています。また引き続き来年度も一緒に取り組めたらありがたいなと思っています。

ということで、それではバトンタッチしまして、シニアネットさんから詳しい内容をご発表いただきたいと思います。

○湘南ふじさわシニアネット

小原さん、どうもありがとうございました。シニアネットの小林です。

○湘南ふじさわシニアネット

影浦と申します。本日はよろしく願いいたします。

○湘南ふじさわシニアネット

では、引き続いて、どんなことをやったかを説明させていただきます。

今のお話のように、予定どおりいっているんですけども、最初にどの資料をデジタル化するかというのが非常に問題になりまして、これはかなりいろいろ検討したんですけども、その中で一番問題は、実は著作権が切れているかどうかという問題で、これは図書館さんに随分調査していただいて、あるいは交渉していただいて、まず、デジタル化できるという前提が、著作権が、保護期間が切れているか、あるいは了解していただいているかということが非常に重要だったんですね。

そういうところやりまして、6月にテーマ選定ワークショップというのをやったんですけども、一応20名を目標だったんですけども、市民参加者が19名で、あと、アドバイザーに慶応大学の図書館学の権威の田村先生と池谷先生になっていただきまして、あと、茅ヶ崎市の関係課かいから5名の方も参加していただきました。

そんなことで、現物を出したり、KJ法でグループ分けをやったり、ここで見ていた

だけるとわかるように、参加者からいろいろな意見が出て、正直、収集に困ったんですけれども、こんな状態で、これをさらにいろいろ分類しまして、テーマ選定ワークショップをやりました。

結果的には、全部絞り込むのは難しいねということで、かなり皆さんの意見を尊重して、いろいろなものをデジタル化したというところです。

ワークショップに出ていただいた評価は、アンケート調査上は、「よかった」と「まあよかった」を合わせて84%なので、まあまあご満足いただけたのかなと思います。

それから、そういうことでデジタル化資料は結構広い範囲にわたったんですけれども、ここに書いてあるような項目に分けてみました。

最初、300コマを予定していたんですが、400コマぐらいになりました。それから南湖荘さんから資料を提供したりもしていただきました。

そんなことですので、先ほど小原さんの話にあったように、結局、スキャンして、それをソフトを使って、ゆがんでいるものを直したり、いろいろな操作がありまして、それからホームページの構築をしていったというところですね。

それでホームページができ上がりまして、それを使っていただくということで、市民の方約30名に来ていただいて、先月、体験セミナーをやりました。ここでほぼ公開ということになると思うんですけれども、そんなことで、この風景ですけれども、こんな状態で、KJ法を使ったりしまして、いろいろな意見を出していただきました。

これは、実は、非常に好評だったんですけれども、アンケートの回収率は90%ぐらいだったんですけれども、皆さん「よかった」「まあよかった」というようなことで、一応ご満足いただけたかなと思います。

あと、ライブラリーの公開は、11月20日に市立図書館のホームページからリンクを貼っていただきまして、現在は公開状態です。どんどん必要なところ、あるいは皆さんから意見のあったところは修正はしております。それで、まあ、公開しましたということで、今でも見ていただけます。

来年は、1月にワークショップ、3月にシンポジウムを予定しています。一番問題は、来年度は、こういうワークショップを通じたりして、いろいろな市民の方の意見をいただきますので、1つは、デジタル資料の更なる充実を図っていくということと、それから、それをいかに活用していただくかというのが非常に問題なので、そのあたりをいろいろ研究してやっていきたいと思っています。

それから、いろいろな人にこういうものがあるということを知っていただかないといけないということで、広報の、あるいはイベントの実施ということで考えております。

以上です。

#### ○事務局

ありがとうございました。

それでは、質疑に移ります。委員長よろしく申し上げます。

○大江委員長

それでは、どうぞご質問のある方。どうぞ高橋さん。

○高橋委員

どうもありがとうございます。

これ、実は結構自分も注目しているんですけども、大体8テーマで400点ぐらいということなんですけれども、1つの作業にかかる時間はどの程度のものなのかというのと、あと、著作権で問題になったケースというのはあったのか、ないのかがわかれば。

○湘南ふじさわシニアネット

まず、デジタル化するのに、実は、1点、1点、何分かかったのかというのは測っていないんですけども、正直なところ、手のかかるものは非常に手がかかるんですね。例えば、スライドというか、全体像を写真なんかで撮っていた場合は、分割してつくってきて、それをまたソフトで編集したりするので、そういうのは何時間と1点でもかかってしまうんですね。あと、例えば、本みたいなものはどんどんできるんですけども、それでも、曲がってしまうとか、そういうことで、すいませんけれども、1点、1点に何分かかったかというのは言えないですけども、かなり、図書館に嫌がられるぐらい通い詰めたような状態です。

○茅ヶ崎市立図書館

著作権に関しては私のほうからお話をさせていただきます。

基本的には保護期間の切れたものをアップするということなんですけど、問題ということではなかったんですけども、今回、茅ヶ崎市史ブックレットを表紙だけでも載せられたらいいんじゃないかと、資料の紹介ということで載せています。ただ、中身に関しては著作権的にちょっと厳しいということは、今現在販売しているものもあるということもありまして、表紙のみということなんですけど、この間の体験セミナーでは中身も見たいということがありましたので、来年度になるかと思うんですけど、目次だけでも見せられればいいかなという、そこが著作権的には問題がない範囲でいけるかなとは思っております。よろしいでしょうか。

○大江委員長

ほかはいかがでしょうか。じゃ、まず岩壁さん、それから伊藤さん。

○岩壁委員

大変楽しみにしております。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

いろいろな意味でご苦勞がたくさんあったんだろうと思うんですが、今、公の機関で図書館と、あと郷土資料館とか、そういうのがありますよね。そういうところが一番持っているのでしょうか。郷土資料は。

それが1点と、ちょっと確認をしたいんですが、体系的に統合的な資料として何を指すことなのか、それとも、今後の、先ほどデジタル資料の更なる充実ということをおっしゃっていましたがけれども、充実したい部分はどのようなものなのか、それを教えてもらいたいんですが。

#### ○湘南ふじさわシニアネット

まず、後ろのほうの答えからいきますと、内容的には、実はデジタルライブラリーというのは、国会図書館から始まりまして、周辺の図書館でもやっているところもあるんですけども、茅ヶ崎らしいものにしたいというのが、郷土資料と銘打っているのもありますので、そういうことで。

それから、体験セミナーとかワークショップを通じて市民の方からいろいろなご意見がいただけますので、それをできるだけ反映して、だけど、正直言っているいろいろな意見を述べられるので、全部が全部受け入れられるわけじゃないんですけども、そういう市民の方々が欲しいなというものをうまく活用していきたいと思うんですね。例えば、さっき著作権の話が出ましたけれども、せめて目次ぐらいは公開する。確かに通販サイトなどを見ると、書籍に関しては多くの場合目次まで公開していますので、そういうことで、目指すものは、茅ヶ崎らしいデジタルライブラリーということで考えています。

#### ○茅ヶ崎市立図書館

あと、郷土資料が集まっているのを見られるところということで、市の話で申し上げますと、文化生涯学習課の市史編纂のほうでは資料としては持っておりますが、こちらは内部ということで、公開をしているものではございません。そちらにもありますし、ただ、図書館の場合は、一般の方がご覧いただけるようにということで収集に努めているところです。国立国会でも持っていない地域の資料に関しては、茅ヶ崎市立図書館で収集して、皆さんに公開できるようにするというのが使命として持っているなと思っているところではございます。お答えになっているでしょうか。

#### ○湘南ふじさわシニアネット

市の方に申しわけないですけども、実は図書館の隣が美術館なんですね。美術館も非常にたくさん持っていますし、今度、資料館を新たに移転するというので、またいろいろな資料を持っているんですね。ところが、正直言って縦割り組織型でなかなか。だから、先ほどの選定セミナーのときは関係各課に出ていただいたんですけども、すぐにい

くかどうかわかりませんが、私たちの希望としては、茅ヶ崎市全体で持っている資料を何とかしたいなとは思っているんですが、簡単にはいかないなと思っています。

○大江委員長

どうぞ伊藤さん。

○伊藤委員

デジタルライブラリーということで2つお聞きしたいんですが、1つは、先ほど図書館の方が、スマホからアプローチしていく。今やってみると、スマホからPCにいかないと、今はダメな状態なんですね。PC画面に。トップ画面がですね。ぜひスマホの画面のトップ画面にデジタルライブラリーに直接行けるようにできたらなと思うんです。

もう一つは、デジタルライブラリーということで映像資料、写真資料、絵画資料を含めて、すごく得手なものだと思うんですが、驚くほど、キャンプ茅ヶ崎、あるいはコロネット作戦のころの写真とか資料が、茅ヶ崎はかつて数十年前は結構発掘した方々がいるんですけれども、ないんですね。特に南の歴史にとっては、キャンプ茅ヶ崎の歴史はとても重要。私が子どものころも、統治下があったりとか、そういう状態でしたので、ぜひそこら辺も、できれば取り込んでいただければ。著作権フリーで提供する方はいるんじゃないかと思えますし、絵画も結構あるみたいなんですね。ぜひそこはお願いしたい。もし予定されているならばお願いいたします。

○湘南ふじさわシニアネット

まず、最初のほうのスマホ対応は、そういうつもりで開発しているんですが、まだうまくいってなければ申しわけないですけれども、一応、今のホームページはスマホからも見られるようなことで考えております。それが1点です。まだ十分じゃないかもしれません。

それから、2番目の、例えば、コロネット作戦なんていうのは、文化生涯学習課がつくった冊子で立派なものがあるんですよ。けど、それがまだ表紙しか公開できないんですけれども、おっしゃるように、茅ヶ崎は昔から鉄砲道もありますように、鉄砲の話から始まって、戦争中、戦後はアメリカ軍のキャンプになったりして、そういうことが集められればいいんですけれども、先ほどの著作権の内容があるんですけれども、今後検討していきたいと思います。

○伊藤委員

よろしく申し上げます。

○大江委員長

ほかはいかがでしょうか。どうぞ。

○草野委員

ホームページについては、テスト版じゃなくて、もう公開しているという形でもよろしいですか。

○湘南ふじさわシニアネット

ホームページというものは、基本的にベータ版とかいう言い方をするんですけども、もう公開して、公開しながらどんどん直していくということになります。公開したということで考えていただいてもいいと思います。先ほどの伊藤さんのように、不都合なところがあったら、どんどん教えていただきたい。どんどん改良していきます。

○草野委員

どんどん改良していただけるという一言を引き出したかったので、質問させていただきました。

○湘南ふじさわシニアネット

どんどん改良します。

○草野委員

もう一つありまして、セミナーを見ていると、i P a dを全員に貸し出して体験させていたということがあったと思うんですけども、これは図書館としてはそれをそろえて、どんどんデジタル化を推進していくという認識でもよろしいのでしょうか。

○茅ヶ崎市立図書館

今回のイベントのi P a dは、全部シニアネットさんのほうでご用意いただいて整えていただいたものになります。残念ながら図書館としては貸し出し用のi P a dというのはないんですが、ただ、図書館にはインターネットで検索するための端末がございますので、i P a dではないんですが、お越しいただければ、その端末からご覧いただく、国立国会のデジタルのほうのアーカイブも見られるようになっておりますので、そちらをご利用いただくという形。

○草野委員

ありがとうございます。

○大江委員長



私からも1つ質問したいんですが、1年おやりになって、デジタル化すべきというか、したほうがいいのかという全体の量のどれぐらいの量がこの2年間でデジタル化可能になるんだろうか。そういう、おおまかでいいので、当たりみたいなものはあるんでしょうか。

○茅ヶ崎市立図書館

始めてみてぶつかった壁ではあるんですが、どちらかというと著作権上出せるものというものが本当に限られております。郷土資料としてはかなりの数を持っているんですけども、そこを全部公開できればいいんですが、著作権でオーケーなものから言うと、あのリストのうちの結構の部分はできている部分はあるのかなとは思って、ごめんなさい、何割までは数字を出していないんですが、申しわけありません。

○大江委員長

今の質問の意図は、この事業を今後どういうふうにするか、つまり、2年間デジタル化したということで一応おしまいということで、あとは活用を考えていくというふうに行くのか、それとも、さらにつくり続けるということが必要なのかという話になってくるかと思うんですが。

○茅ヶ崎市立図書館

おっしゃるとおりで、2年間で、今、可能なものについては、ほぼほぼできるような形で、協働事業が終わった後は、職員の手で細々とできていったらいいなという構想です。

○大江委員長

ありがとうございました。

○湘南ふじさわシニアネット

市民活動団体としてはぜひ続けていただきたいんです。協働推進事業では終わってしまうということはわかるんですが。

○大江委員長

最後に1問ぐらい。どうぞ岩壁さん。

○岩壁委員

不要な質問かもしれませんが、成果品の帰属場所はどのように検討されていますでしょうか。

○大江委員長

それはサーバーの場所ということですか。

○岩壁委員

いや、デジタル化した成果品。

○茅ヶ崎市立図書館

デジタル化した画像データに関しては、事業を始まる前から、最終的には図書館側でいただくということではお話をさせていただいています。ただ、サーバーは今そちらにありますので、移行ということになるかと思います。

○湘南ふじさわシニアネット

協定書上は、著作権とかいろいろなのがありまして、例えば、著作人格権ということを見ると、それを操作した権利というのは消せないということもありますので、一応、協定書上は両者に帰属するということになっているんですけども、ただ、具体的な問題が起こったときは、もちろんうまく移行するようにしたいと思います。

○事務局

ありがとうございました。

「郷土資料デジタルライブラリー」のプレゼンテーションでした。ありがとうございました。（拍手）

以上で予定しておりました2つの事業のプレゼンテーションが終了いたしました。これより総括質疑に移ります。総括質疑は、本日プレゼンテーションしていただきました団体様と担当課にこの輪に入ってくださいまして進めてまいりたいと思います。

席の移動を職員がご案内いたしますので、よろしくをお願いします。

（席移動）

○大江委員長

こういう形式は初めてなんですけれども、何となくいい感じかなと思います。今回、提案団体は残念ながら少なかったんですけども、そのかわり、こうした形で、わりと密に意見交換ができるかなというふうに思います。

総括質疑につきましては、質疑応答の中で十分に議論ができなかったこと等についても意見交換するんですけども、全体としましては、協働を進めていくことによって、自分たちのそれぞれの市民の団体のほうの活動の成長・発展していくための展望が持てるというような感想もいただいている、具体的な事業をイメージしながら、協働事業全体について意見交換するということが1つのポイントかなというふうに考えています。

ということなんです、自由にご意見をいただきたいということでございます。どな

たからでも結構ですが、いかがでしょうか。どうぞ。

○西野委員

最初のプレゼンテーションでお伺いした、はまかせ菜園のところで、アンケートか何かで「満足」とかいう意見をいただいたと思うんですけども、今後なんですけれども、どのような観点でこういった事業に対してよかった点があるか、ないかとかいうのを踏まえたアンケートを実施していただきたいなということが意見としてあげたいと思います。

○青少年課

ありがとうございます。アンケートの内容につきましては、団体さんとアンケートの内容を詰めさせていただいて、あしたから実施させていただきます。

○西野委員

よろしくお願いします。

○大江委員長

ほかはいかがでしょう。じゃ、伊藤さんどうぞ。

○伊藤委員

2年目に入るので、その後の作業として協働事業は市の責任が重くなるんだと思うんですが、それぞれの事業について、市の方にお聞きしたいんですが、最初の事業に関しましては、先ほど申し上げましたように、どうやって菜園に市民が結びついていくかという促進策、例えば、市の持っている公有地を利用していただくであるとか、あるいは、プランター菜園なり、そういったものをどうやって盛んにしていくかという施策を打てるかどうかということにかかっているんだと思うんですね。1つは。もう一つは、ボランティアということ。

図書館のほうは、先ほど委員長から質問がありましたけれども、今後、デジタルライブラリーをどうしていくか。理想的には、市民がデジタル資料を提供して、著作権をそもそもクリアした状態でもって、自分の写真あり、あるいは自分の絵なりを提供することが手早いんだと思うんですね。もちろん、それから、市の所有しているほかの資料について。図書館のほうにお聞きしたいのは、そういったフォローアップ、あるいは今後の施策についてどのようにお考えになっているか、あるいはどういった仕組みをつくっていくか。

2つの質問でしたけれども、はまかせについては、市がどのように拡散していくか、ポタジェならポタジェ。それから、図書館に関しては、どうやってデジタル資料を今後自然にふやしていけるか、無理なくふやしていけるか。どういった施策を考えているか、それぞれにお聞きしたいと思います。

○青少年課

それでは、はまかぜ菜園のほうから回答させていただきます。

はまかぜ菜園は58平米ということで、ごく限られた土地です。これが例えば卒業した後に家の庭でやっていただく方もいらっしゃいますし、当然、ベランダ等でやる方もいらっしゃるかと思います。市のほうとしては、市民農園だったり、耕作放棄地とか、いろいろな手法があります。その中で具体的に40名程度の方が参加した中で、この方々がどのような形でやっていくのかというお話を聞きながら進める考え方は1つあるんですけども、それですと40名だけの規模にしかならない。この事業にもっと多くの方が参加していただくということであると、体験学習センター自体がこれからオープンするというので、まだ施設自体の周知が市民の方全員に知れ渡っていないという現状があります。例えば、愛称募集をしながら、約600人の方の投票があつて、一部の方にはかなり伝わっている。また、市長記者会見のユーチューブなんかでは1,000回を超える再生回数があるということなんですが、まだまだ周知が足りないということなので、菜園を含めた中で、全体でこの施設を周知をしていく。これは地域施設ではなくて、茅ヶ崎市の全体を対象とした施設ですので、その辺のところの中で南側の地域の方であったりとか、北部の人であったりとか、それぞれ対応が変わってくるかと思うんですが、その辺のところを縦割りではなくて、経済部とか、ほかの部と話をしながら、マッチングをさせながら進めていきたい。今、自分の課としてできることは、施設の周知を積極的にしていくということで、職員がまずいろいろなところを回って活動をしていきたいと考えております。

以上です。

○大江委員長

どうぞ、図書館。

○茅ヶ崎市立図書館

ご質問ありがとうございます。

多分、伊藤委員さんよくご存じのことなのでご質問いただいたかと思うんですが、実際、ほかの図書館を見ていたりすると、デジタル化はしたけれども、その後資料はふえないとか、つくったけれども、活用はなかなかというのが、そういったシンポジウムとかに行っても課題として挙がってくるところですので、こちらの図書館としてもやはり同じように課題として認識しております。

もともとこのスタートは図書館で持っている資料をデジタル化して公開というところからスタートではあったんですが、その先を考えていくと、伊藤委員がおっしゃったとおり、著作権の問題がクリアできるような形で少しずつふやしていくというようなことも考えていかなければならないなと思っているところです。

デジタルライブラリーはいろいろな可能性があるものだと、先ほどの質疑の中でもご意見、ご要望いただいたとおり、図書館だけの資料に限らないとか、いろいろあると思うんですが、今、図書館としてこう、というのは決めることは難しいと思いますが、そういうことも考えてつくったけれども、活用されない、放置されているというのだけは絶対に避けたいと思っているので、これをきっかけに学びが広がっていくような方法を図書館としても、図書館だけの中にとどまらずのところでいろいろ考える1年に来年していきたいかなと思っております。

○大江委員長

どうぞ、ほかにいかがでしょうか。

○湘南ふじさわシニアネット

きょうの報告とは無関係なんですけれども、今回、来年度、続いているところの2テーマの公開プレゼンテーションなので、来年以降、協働事業はどうなるかというのが非常に心配なんです。ことしを見てみますと、行政提案型が1つもなかったと。市民提案型も、意見交換会には10のテーマが上がったんですけども、1つも企画書まではいかなかったと。そのあたりは市としては来年以降この協働事業をどういうふうに考えられているのかなということをちょっと。非常に心配しているんですけれども。

○大江委員長

市の方針がどうかわかりませんが、今のような状況の中でどう見ていらっしゃるかといいますか。基本的にこの仕組み自体は続けていくことになる。たまたまことしは少なかったのかなと思いますが、その辺いかがでしょうか。

○事務局

今回、行政提案型ということで2事業、2年目の事業を提案していただいている、残念ながら、今年度の募集に関しては、テーマ自体が市のほうで上がってこなかったという現状があります。市民提案型も同じく協働推進事業なので、あわせてご回答申し上げますと、協働推進事業というのは、市の公共事業として実施します。市の公費で、担当課もちゃんとついて、総合計画の実施計画に位置づいた事業の一つとして実施されるという趣旨の事業でございます。

公共事業全体で考えると、一定の成果を見越した上で事業を計画して予算をつけて、計画立ててやるんですけれども、成果のためにどんな手法が一番マッチするか、その成果を上げるためにどんな手法が望ましいのかを考えて、直営なのか、委託なのか、協働なのかというような手法の組み立てを考えると。今年度はたまたまどの事業も、成果を見越した上で、協働よりもほかの手法のほうがいいというふうに考えられたものが多かったので、

担当課のほうから行政提案型のテーマとしてなかなか上がってこなかったのかなと思います。

制度自体は、今までずっと行政提案型は同じような形で担当課から上げてもらって、それが協働としてふさわしいかどうかを、この推進委員会とか、市役所庁内の会議の中で決定して公募するというような過程を踏んでございますので、そこら辺は変わりがなくて、職員に向けても、成果を見越す上で協働という手法はこういうメリットがあるんだというような研修は行いながら、毎年、募集しているという流れです。来年度以降もおおむねこういった形態で事業のほうは同じく進めていこうと、そのように考えています。

○大江委員長

どうぞ。

○湘南ふじさわシニアネット

どうもありがとうございました。たまたまことはこうなったということの理解でいいですね。

○事務局

はい。

○青少年課

体型学習センターの3年目以降のところ、先ほど私のほうから説明が足りなかったの  
で、ちょっと補足で説明をさせていただきます。

行政提案型推進事業ということで、うちのほうが提案をさせていただいたということ  
で、センターの菜園というのは、この後、恒常的に菜園が継続してあります。このやり方  
としまして、今、半農半Xさんと一緒に協働推進事業をやっていた。この検証をしながら、  
来年以降、協働でやるのがいいのかどうかというのは、また再度考えるわけでございます。  
3年目以降どうするのか。もし仮に協働の手法がいいといった場合には、じゃ、その相手  
方をどうするかといった場合に、当然、半農半Xさんの企画案というのは非常によく継続  
してやりたいという気持ちは、今のところ、十分あります。

しかしながら、相手方に関しては、半農半Xさんの一緒にやった中の、例えば、卒業  
生が同じような市民活動団体をつくって、新しい提案をしていただく可能性とかもありま  
す。そうすると、行政提案型をもし出した場合に、半農半Xさんのポタジェガーデンの新  
しいバージョンでやるのか、もしくはほかの企画案でやるのか、例えば、卒業生が新しい  
団体をつくって、新しい案を出した場合には、それと戦うというわけではないんですが、  
より質のいいものを施設の方向性ということでどちらがいいのかを選択する、そんなよう  
な市民活動の更なる発展もありますので、まず、協働でやるのか、手法を考えた後、相手

方も一緒にやりたい気持ちも十分あるんですが、それが適切なかどうかと、2段階で考えて進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○大江委員長

いかがでしょうか。どうぞ。

○岩壁委員

それぞれ1点ずつお伺いしたいと思います。子どもから高齢者の世代間交流ということで、先ほど9歳とおっしゃってましたね。こういうものを通じて、ぜひ子どもたちに達成感を、あるいは参加者全体かもしれないけれども、達成感を味わわせていただきたいというふうに思っております。それが将来、家庭菜園とか、そういうものにつながっていくんだろうなというふうに思います。

それで、これはよく、今、土づくりということをこの中に書いてありましたけれども、ご承知だと思うんですが、私も子どものとき、南のほうで育ちましたものですから、東海道線から。ほとんど砂地で、あのときの記憶を見ると、麦畑であったり、麦畑にヒバリが飛んでいたり、あるいはサツマイモの畑であったり、野菜はあまりなかったなという記憶があるんですね。北のほうへ行くと土壌が肥えていますから、わりといろいろなものが栽培されておりましたけれども、おそらくご承知だと思うんですが、そういうような技術的なものも、市内を対象というふうな話をされておりましたものですから、そういうものを活用していくような講座みたいなものも必要になってくるのかなというふうに思っております。それが1つです。

それから、デジタル化のほうですが、先ほど、大江委員長もすごく気にされておりましたけれども、私も、将来これはぜひ充実させていただきたいなと思っております。実はなぜそういうふうにありますかという、昨年、私、うちのほうの関係している組織の中で、歴史の資料集をつくったんですね。茅ヶ崎市に見ると、体系的に整理されていない部分がたくさんあったんですね。そういう意味で、茅ヶ崎ならではの資料が体系的に整理されると、いろいろなものに活用できるのかなと思っております。特に、著作権の関係はクリアすることが必要なんですが、まだ眠っている資料が各家庭の中にもあるのかもしれないけれども、そういうような呼び水をしていただければ、将来につながっていくのかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

○大江委員長

要望的な部分が多かったと思いますけれども、何か今のことについてコメントいただければと思いますが。どうぞ。

#### ○湘南ふじさわシニアネット

茅ヶ崎市の歴史が十分整理されていないという、これはきりがないところもあるんですけれども、正直なところ、茅ヶ崎市の今の努力を見ていると、文化生涯学習課で市史編集担当があって、毎年、ブックレットを開拓して、かなりいいものを出しているなどというところもありますし、それから、今度新しく北側に資料館が移転して本格的にやるということなので、そういうのも期待しているんですけれども、あと、私たち、これをやりまして、いろいろな市民活動団体が郷土資料を整理しようとして努力されているので、そういったところともうまく連携をとれたらいいかなと思っていますけれども、そういうことで、いずれにしても、先生から言われぬように、茅ヶ崎市は歴史はちゃんと整理しているよというような状況に持っていきたいと思いますので、どうでしょう。

#### ○茅ヶ崎市立図書館

今、小林さんからお話しいただいたとおりだと思うので、先ほど「呼び水」という言葉が使われたんですが、これをきっかけに、市郷土資料というのはわりと埋もれているところがありまして、本来、私も図書館が表に出て行って収集するというふうに出ていくべきところ、なかなかできていないという反省もあり、ここを呼び水にして集めていくことに、更なる充実をというところに行けたらいいなというところを思っております。

#### ○半農半Xを楽しむ会

先ほどお話しいただいたんですけれども、茅ヶ崎は本当におもしろいところで、北側は里山が広がって、川もあれば、海もあって、砂地で南側のほうは野菜づくりにすごく苦労されているというのは伺っている限りなんですけれども、その場所、場所に合ったやり方というのを一緒に考えていくというのがすごくおもしろいなと思ひまして、横並びで、じゃ、どうしようかというところをまた考えていきたい。砂地であれば、大量の有機物も必要ですし、有機物をどうやって入れていけばいいか。家庭の残飯をうまく発酵させて入れるとか、そういう循環を学びながら、楽しく知識を得ていただけるような仕組みとか、流れというのを考えていきたい。そういう意味では、茅ヶ崎はとても好条件がそろっているとか、いろいろな地域からお越しになられると思いますので、その中でディスカッションとか、議論を深めながら、皆さんの理解を深めていくというところを私自身も楽しみにしております。

#### ○大江委員長

それでは、ほぼ時間になりましたので、幅広く意見交換ができたかなというふうに思います。私の最後の挨拶の前に、事務局のほうから何かアナウンスがあれば。

#### ○事務局



本日いただきましたプレゼンテーションを受けまして、12月末を目途に結果に関して通知をさせていただきます。評価結果の通知の際、事業の採否のほか、採択条件や予算の査定結果などが含まれている場合もございますので、ご確認のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは委員長、挨拶をお願いします。

#### ○大江委員長

きょうはどうもありがとうございました。きょうは行政提案型の2事業ということありますし、また、それぞれが本来の事業の中で継続的に行っていくという事業の中に組み込まれた協働事業であるという特徴があったかと思うんですね。ですので、今後どうなるかということについて、例えば、はまかぜ菜園であれば、これは、あの施設全体が例えば指定管理になるということがあるとするれば、その一部でもいいんですけども、その中に入っていくような展開というのはあるのかなと。例えば、これは一番最初、周りの2階のテラス部分の植栽の管理も含めて協働事業という話があったんですけども、その部分と実際に植木をチョキチョキやるのと、菜園をどういうふうに市民が参加してやっていくかというのは、ちょっと性格が違うだろうということ、2つにお分けになったわけですよ。

そういう形で、これから直接的に、例えば委託事業でやっていくのか、指定管理の中に含まれて、そして、指定管理者がNPOや市民と組んでやっていくというスタイルもあるので、いろいろな展開の仕方があるのかなという感じはしていますが、いずれにしても、つくった菜園をずっと有効に市民サービスとして使い続けていくと。そこには、単に使っていますじゃなくて、市民が参加して、そして幅広く使われていくというところにつながっていくということが多分目的として重要なので、そこに向けて、いろいろなアイデアを出したりしながら、うまく展開していくんだろうなというイメージが描かれるものだと思います。

図書館のほうも、図書館の本来の事業の中に位置づけられていて、そして、それを単にその収集物をデジタル化するというだけじゃなくて、それを活用していく。そういう意味で、図書館が行っている市民サービスというものがより広く行き渡るために、やはり市民の参加が必要で、そして、興味を持ってくださった方々がふえていくことによって、資料収集にもつながっていくし、また、それを公開して利用するのにつながっていくというような循環の中にあるのかなという感じがします。これは、どういう事業として本来の図書館の予算の中に入っていくのか、次はまた違うテーマをつかって、またこれと同じような形でやっていくのか、これもいろいろな展開があるかと思いますが、いずれにしても、わりと本来事業の中に組み込まれたものである。そして、それを市の職員の方たちだけが担うのではなくて、いかに市民の参加を得て、結果的にそのサービスがより広く深く行き渡るか、そういう位置づけの中にあるかと思うんですね。

これまで、行政提案型の中には、わりとプロジェクト型である、一定期間やったら、それでおしまいと。文化会館の改修の際の事業なんかもそうだったと思いますけれども、そういうタイプのものもありますし、かなり継続していくものもあるということもあって、僕、前からずっと問題視としてあるんですけども、そしてそろそろ私の任期もおしまいなので、協働事業というものを、どういうカテゴリーの中にあって、そのカテゴリーとして考えると、展開としては幾つかのパターンがあるような感じがするんですね。そういうふうにして具体の事業を見ながら、こういう事業はこういう展開があり得るんだということを蓄えて、そして、これから提案されていく事業についても、そういうものを参照しながら、よりうまく発展できるような方向性を、行政も委員会も、そして市民の方々も意識しながらやっていると、協働事業という形で、さっきご挨拶の読み分ありましたように、12年間、約100の事業がこれまで行われてきたというものを、豊かな茅ヶ崎の資産としてより発展させていくことができるんじゃないかなというふうに感じました。

きょうは、市民提案型がないので、市民提案型のほうもおそらく同じような形で、何らかの整理をして、これから出てくるものをうまくい続けて育てていくというふうにできるんじゃないかと思っているので、そんな方向で進んでいけばいいなというふうに思っております。

ということで、私のご挨拶兼感想みたいなことで申し上げました。きょうはプレゼンテーションどうもありがとうございました。これにてきょうの会議を終了というふうに、閉会というふうにさせていただきます。

#### ○事務局

ありがとうございました。

以上をもちまして、平成31年度実施協働推進事業公開プレゼンテーションを閉会いたします。ありがとうございました。

委員長署名 大江 守之

委員署名 北川 哲也